

消費者物価指数からみる、物価の動向

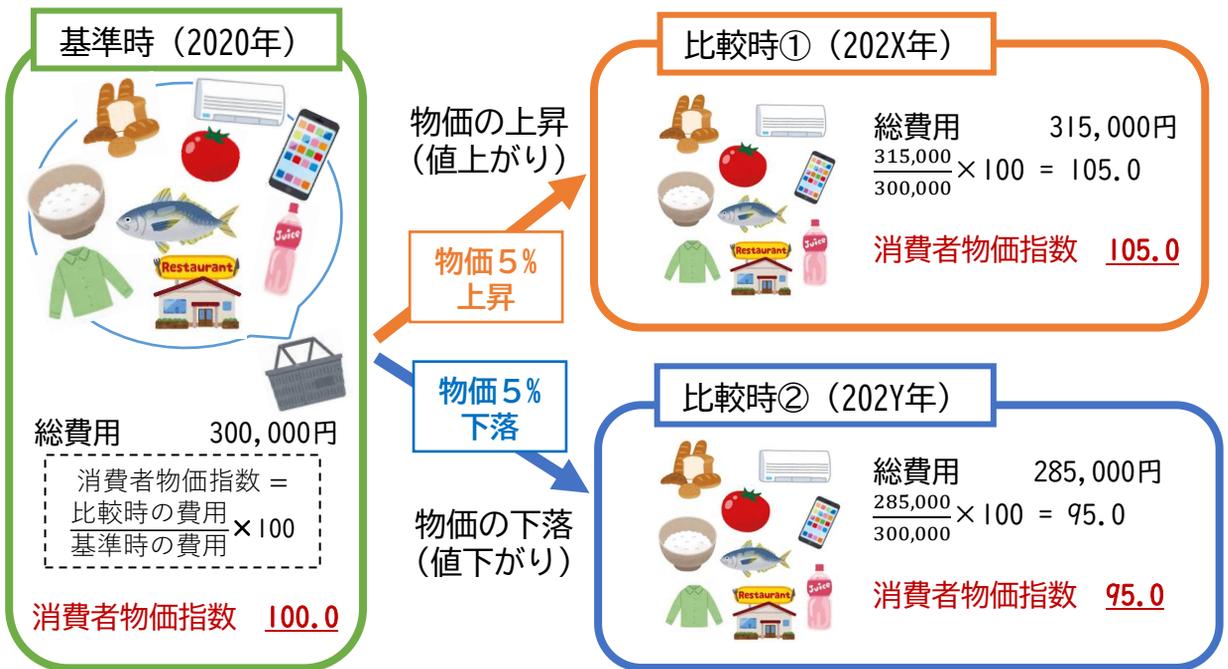
最近日々の買い物で、商品の価格の上昇を実感する機会が増えたと思います。そのような物価の上昇を客観的に判断するにはどのような方法があるのでしょうか？ そんな時に使える指標が、「消費者物価指数」です。



01 消費者物価指数（CPI）ってなに？

わたしたち消費者が普段購入する商品（財やサービス）の価格の動きを示す指標です。総務省統計局の小売物価統計調査で調査した価格を用いて算出されています。

現在は、**2020年平均の物価を100**として、2020年時と比較して物価がどれだけ変化したかを指数化したものを公表しています。



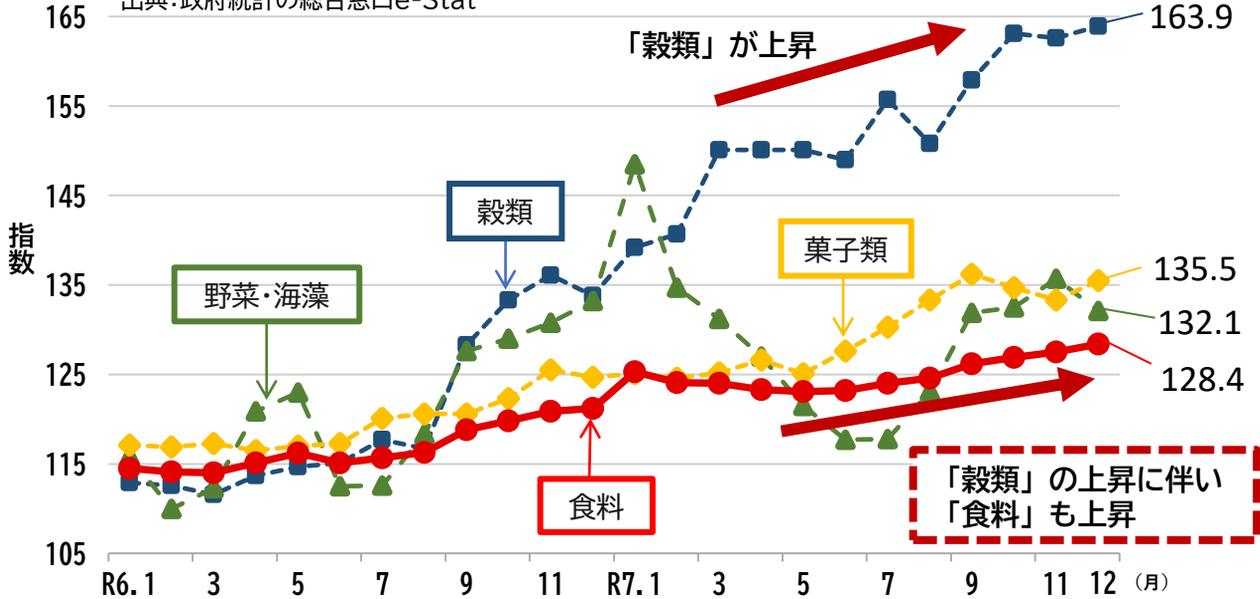
ここでは、基準となる時点（基準時）と比較する時点（比較時）に、世帯で実際に購入した商品全部を買物かごに入れたと考え、その費用を計算してみます。上記の図の例では、**基準時の指数を100**として、物価が5%上昇すると比較時①の**指数は105.0**となり、物価が5%下落すると比較時②の**指数は95.0**となります。

このように、基準時からの物価の変動を指数を用いて表すことで、「最近、モノの値段が高いなあ」という主観的な考えも、客観的な事実として裏付けることができます。

02 福井市の食料の指数の推移をみてみよう！

出典：政府統計の総合窓口e-Stat

令和2年(2020年)=100



ここからは、わたしたちの生活に欠かせない**食料の指数の推移**を見てみます。上記のグラフは、令和2年(2020年)=100として福井市の「食料」とその内訳のひとつである「穀類」、「野菜・海藻」、「菓子類」の価格を指数化し、令和6年1月～令和7年12月の推移を示したものです。

「食料」のグラフを見ると、令和6年1月～8月は115前後で推移していましたが、9月から上昇し、令和7年1月は125.3、令和7年12月には最高の128.4と、上昇傾向が続いていることがわかります。**なぜこのように、上昇傾向が続いているのでしょうか。**

要因1 コメの価格上昇の影響

令和6年9月のコメの価格上昇を要因とする「穀類」の指数上昇に伴って、「食料」の指数も上昇していることが見てとれます。

要因2 野菜の価格上昇の影響

令和7年1月のように、天候不順による「野菜・海藻」の指数の上昇も影響します。

要因3 その他の品目の価格上昇の影響

価格の変動が激しい生鮮食品以外では、「菓子類」の指数が上昇傾向にあり、特にチョコレート(原料のカカオ豆の価格高騰が要因)や、せんべい(コメの価格上昇が要因)の値上がりが影響しています。

このように、グラフ化することで、物価の動きを視覚的に見ることができます。

今回は消費者物価指数について説明しました。毎月下旬に県のホームページで福井市消費者物価指数の前月の結果を掲載していますので、下記リンクからぜひご覧ください。

■福井県ホームページ：[福井市消費者物価指数](#)

参考文献 [総務省統計局ホームページ](#)、[e-Stat](#)、総務省統計局発行「小売物価統計調査のあらまし」

